

3. フォローアップの実施

フォローアップは、成果の評価において、数値目標の達成状況の検証に「見込み」の値を用いた場合や、都市再生整備計画に掲げたまちづくりの目標並びに数値目標を達成できなかったために「改善策」を行った場合などに実施します。

フォローアップによって、「確定」した値や改善後の値を計測し、改めて達成状況を確認することで評価を確定させるものです。

なお、3～5年間のまちづくり交付金の期間終了後も、引き続きまちづくり交付金を活用して事業を実施する場合には、フォローアップの実施は不要とします。

フォローアップの具体的な実施方法は以下のとおりです。

(1) フォローアップの時期

フォローアップは、事業完了（交付終了）後、各指標の「確定」の値を計測できる適切な時期に実施する。

原則として交付終了の翌年度に実施することとするが、交付終了の翌年度にも確定の値を計測できない指標については、概ね3年以内で適切な時期に実施することによりものとする。

(2) フォローアップの内容

フォローアップでは、少なくとも「確定」の値を計測して、成果の評価を確定させることとする。

原則として方法書に予め記入した計測手法を用いることとするが、手法を変更した場合は、変更内容が分かる資料をフォローアップの報告時に添付することが望まれる。

事後評価で用いた「見込み」の値と、フォローアップによって計測された値との間に大きな差異がある場合や、改善策を実施しても数値目標が達成できていなかった場合には、事後評価時に作成した「今後のまちづくり方策」や「改善策」を再検証することとする。（事後評価時に作成していなかった場合には、作成することとする。）

(3) フォローアップの公表と国への報告

フォローアップにより事後評価結果の見直しを行った場合には、適宜、その結果を住民に公表するものとする。

また、「まちづくり交付金 事後評価様式」の所定の欄にフォローアップの結果を記入して、国へ適宜、報告することとする。

【補足・留意事項】

- ・ フォローアップ時期の一例を以下に示す。

例1) 居住人口：〇〇地区の正確な居住人口が、事後評価後2年を経過した時点で確定した場合

例2) 来館者数：整備した△△施設の年間来館者数が、事後評価後1年を経過した時点で確定した場合

【記入例】 フォローアップ時の評価結果の記入方法

フォローアップでは、添付様式1-②、3-①、様式2-1の『フォローアップ』欄（事後評価時に見込みの値を記入した箇所）へ確定値を記入するとともに、その他の様式および添付様式においても記入内容の更新等を適宜実施する。

【記入例（添付様式1-②）】

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要	変更された 目標との対応	実績(事業費)		事後評価時の完成状況	
事業	細項目	事業費	事業内容	事業費	事業内容			事後評価 《見込み》	フォローアップ	完成	完成見込み
道路	都市計画道路〇〇線改良事業	50	〇〇線 L=120m	45	〇〇線 L=100m	国道への接続箇所の見直しにより延長を短縮	-	45	45		●
道路	都市計画道路△△線改良事業	80	△△線 L=150m	92	△△線 L=150m	地盤改良が必要となったための事業費増	-	92	92		●
道路	市道□□線改良事業	0		20	□□線歩道拡幅	観光客の歩行環境を改善するため、歩道を拡幅工事を追加	C	20	20	●	
道路	市道××線〇〇交差点改良事業	40	××線 L=80m	36	××線 L=80m	コスト削減による事業費減	-	36	36	●	
地域生活 基盤施設	●●地下道自由通路整備事業	100	-	100	-	-	-	100	100	●	
高次都市施設	○駅橋上駅舎改築事業	300	-	0	-	基幹事業から提案事業(駅舎改築事業)へ変更	-	0	0	●	
土地区画整理 事業(都市再 生)	□□土地区画整理事業	2,000	公共用地率:30% 再築戸数:25戸	2,400	公共用地率:30% 再築戸数:30戸	地区内道路の線形見直しによって支障物件が増加	-	2,400	2,400	●	

※フォローアップ時の修正について

数値及び文章の修正が必要となった場合は、適宜、欄（枠）を拡張するなどして記入する。その際、当初計画又は事後評価の際に記入した内容（元からの記入内容）は削除せず、消し線を用いて対応する。

例1) 数値等の軽微な修正

【修正前】 〇〇整備事業 面積 2,300㎡

【修正後】 2,800㎡

例2) 文章の修正

【修正前】 ……するものとし、特に、●●館のイベント等に関する情報を発信していく。

【修正後】 ……するものとし、特に、●●館のイベント等に関する最新情報をリアルタイムでHP上から提供していく。

【記入例（添付様式6-③）】

項目	基本的な考え方	想定される事業
居住人口の更なる増加	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の完成後には、隣接する〇〇地区の再開発事業に着手予定であるが、具体的な入居テナント等については今後の本格的な検討が必要 同地区を含め、引き続き再開発によって居住機能の再生を図るには、地価負担の一層の低減が避けられない課題 さらに、定期借地権の活用など再開発によらない手法による低層住宅の賃貸促進によって人口増加を図る取り組みが考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> 入居テナント選定に向けた説明会 地域住民・地権者との話し合い 低層住宅の賃貸促進
観光客の誘致強化	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇周辺には案内や広告等があまり見られず、来訪者にとっては利用しにくい状況にあるので、サイン整備等により早急に改善を図る 駅から〇〇までは車で10分程度と遠い位置関係にあり、バスの利便性の向上などアクセスの改善が必要 観光客の増加に対する設備面・防災面での対応が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇周辺サイン整備事業 駅構内における情報提供サービスの充実 バス路線および時刻表の見直し ・バス路線および時刻表の見直しを含めた総合交通体系の構築 トイレ・休憩施設・駐車場整備事業 駅防災機能向上事業